

## 2020年度（令和2年度）収支決算の概要

令和2年度決算は、経常収支差額で約4千4百万円の黒字となり、昨年度の約5千6百万円の黒字から大きな変動はありませんでした。各財務分析比率からも、本学は良好な財務状況を維持していると言えます。

今後は、開学から20年が経過して老朽化した施設・設備の修繕または更新工事による支出の増加が予想されることから、不要な支出の削減や適正な人員配置による人件費比率の抑制などにより、経常収支の状況を向上させることで、質の高い教育研究の実現、財政基盤の強化・維持に努めてまいります。

なお、主要な財務比率別の状況は下記のとおりです。

**経常収支差額比率 3.1 %**

<算定式> 経常収支差額 / 経常収入

この比率は経常的な事業活動収支のバランスを表し、比率がプラスの場合は経営に余裕があると評価される比率です。本学は、令和2年度も収入が支出を上回り、平成29年度から4年連続でプラスを維持しています。

**人件費比率 54.6 %**

<算定式> 人件費 / 経常収入

人件費の経常収入に占める割合を示す比率です。人件費は学校における最大の支出要素であり、この比率が適正水準を超えると経常収支の悪化に繋がる要因ともなります。本学は令和2年度も前年度とほぼ横ばいで推移しており、一般的な大学の人件費比率の目安と言われる55～60%程度と比べても、標準的な比率を維持しています。

**教育活動資金収支差額比率 18.5 %**

<算定式> 教育活動資金収支差額 / 教育活動資金収入

学校法人における本業である「教育活動」でキャッシュフローが生み出せているかを測る比率です。本学は本比率においても収入が支出を上回っており、教育活動のみでも、キャッシュフローを生み出せている状態であると言えます。

**流動比率 388.9 %**

<算定式> 流動資産 / 流動負債

学校法人の短期的（1年以内）な支払い能力を判断する重要な指標となり、本学は毎年200%を超えており、良好な状態が続いています。

**その他 - 新型コロナウイルス（COVID-19）感染症に伴う収支の影響 -**

令和2年度は、新型コロナウイルスに対する感染対策として、各種感染対策品の購入、遠隔授業及びサテライト授業の実施に係る設備の導入、その他にインターネット回線の強化、学内演習のシミュレーターの増設などにより、支出が約3千6百万円増加したが、予定されていた旅費交通費・実習委託費等の支出が削減されたことにより当初予算の範囲で運用が可能であった。